



JCNA 2006年度テーマ

いのちの旅・寄り添う看護

「わたしはいつもあなたがたと共にいる」 (マタイ28の30)

2006年度 テーマ解説

いのちの旅・寄り添う看護

「わたしはいつもあなたがたと共にいる」 (マタイ 28 の 30)

人はその「いのち」のはじまりから完成まで、共に支え合って歩みます。小さいいのち、弱いのちに寄り添い支えることこそ看護者の役割です。ひとりひとりの旅路は、ある時は疲れ、傷つき、災難にあいます。病んでいる患者さま、そして共に苦しむ家族、わたしたちの使命はその方々と「共にあって」支える役割であることは言うまでもありません。それはキリスト的な働きであり、キリストに特別に託されたわたしたちカトリックナースの使命です。わたしたちと共に行きたくさると約束された主に信頼し、その光を求め、力を受けて、主のように病めるかたがたに「寄り添い」仕えることのできる道を「共に」学び、歩みましょう。

JCNA会員のみなさま、いかがお過ごしでいらっしゃいますか。

寒さと雪の厳しい今年の冬でございますが、それぞれの持場で、懸命にお励みのことと思います。

2006年も、はや、ひと月余りが過ぎてしまいましたが、本部役員会で上記のような思いを込めて、「いのちの旅・寄り添う看護」という新年度のテーマを掲げさせていただくことといたしました。水野前会長様もよくおっしゃっておられますように、私たちはいつも「いのち」に向き合って生き、働く使命を担っております。会員のみなさま各自が、それぞれの場できびしい現実の中にも、病める方々のため、また人々の健康を守るために尽されていることは本当に尊い使命であるとあらためて感じています。

特に現代、家庭をはじめ、学校、社会、そして世界中で人のいのちのことが、様々なレベルでおそろかにされ、危機にさらされ、あるいは破壊されるという悲惨な現実を前にするとき、私たちは、これまでも増して、いのちのことを、ひとりひとりのかけがえのなさとともに、家庭をはじめ、社会全体として根本から真剣に考えなおし、取り組まねばならない時なのでは、と思いが走るばかりです。

会員のみなさま、カトリックナースとして、私たちは「いのち」について「キリストとその福音、神さまの愛」という恵みと光の中に招かれた者であることを、あらためて思い起こし、それを共に感じ、分かち合う集いであることを深めてまいりましょう。

会員の方々が、お一人お一人の持ち場で、各支部の集いの中で、そして全国の会員のつながりと集いを通して、今年も「神さまの愛」の中に活かされて新しい気持で進んでまいりましょう。

今年の全国大会は10月に名古屋で開催されます。多くの会員のみなさまのご参加を心からお待ちいたします。

2006年2月

JCNA 会長 薄島和子
本部役員一同

第48回日本カトリック看護協会全国大会

と き 2006年10月27日(金)～28日(土)

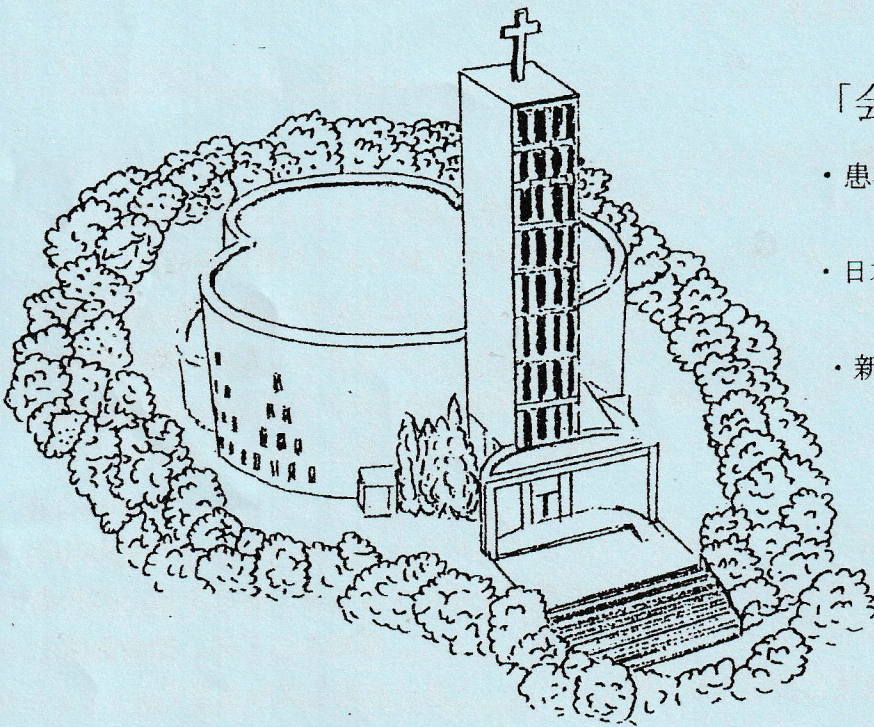
ところ 名古屋・カトリック^{なんさん}南山教会 マリア館ホール

テーマ 寄り添う看護と医療

「基調講演」

愛知県がんセンター愛知病院

医師 渡邊 正 氏



「会員発表」

- ・患者の自己実現に向けての
 当院の取り組み
- ・日本における家族の保健医療～
 高齢者を囲む現状と課題
- ・新生児を看取るとき、私たちにできること
 ～家族としての時間を作るために～
- ・他 二題 予定

患者さんは苦痛から逃れたい、治りたい、
健康になりたいと願います。
その向こうには希望を見つめています。
願いと希望
声なき声の叫び。
それが祈りだと思います。

そういう患者さんの祈りを受け止め、
その祈りを自分のものとして祈り、
行動する、それが看護です。
—シスター寺本松野—
『看護は祈り』より

第47回 JCNA 全国大会 報告

2005年10月14日～15日 北海道・登別グランドホテルで開催されました

テーマ 「癒し」～共鳴しあう心のいやし～

講師 渡辺 義行師 JCNA 札幌支部 顧問司祭(旭川フランシスコ修道院)

第一講演「聖書の中の癒し」、第二講演「病の中の癒し」、と二回に分けてわかりやすくお話してくださいました。

第一講演では、近頃耳にすることばに「いやし系音楽」「いやしグッズ」「いやしのパジャマ」といったことばがあり、それは、人はストレス社会の中で傷ついている、何かを求めている、ということではないか。と話しかけられ、「いやし」とは何か、どうしたらいやされるのか。いやしの視点を聖書の中から、さらに秘跡を通しての祈りや愛のかかわりをしめしてくださいました。

第二講演では、ご自分の病の体験から「病者とは」。さらに看護者は病者と関わるのは日常のことでも、病者からみるとどうなのか。しかし、病者の思い「早く元気になりたい」ということと、看護者の「早く元気にしてさしあげたい」の関わりの中で看護者も「いやし」が必要になっている。ではどうしたら両者がいやされていくのか、というような講演でした

札幌支部の皆様、お疲れ様でした。ありがとうございました。

第9回 CICIAMS アジア地区大会 報告

テーマ 健康な家庭～看護者の使命

2005年11月27日から30日までの4日間、CICIAMS アジア地区大会が香港で開催されました。

メインテーマは「Healthy Family—Our Mission as Carers」。会場はアバデーン市内の香港アカデミーオブ・マネジメント。ここにアジアを中心に18ヶ国の約400名が集い、日本からは10名が参加しました。

各国の司祭らとともにパチカンからおいでになった、ハヴィエル・ロザーノ・バラガン枢機卿は教皇庁健康司牧ケア協議会会長を務めておられ、開会式後の荘厳ミサ、翌日の基調講演で感動的な話をされるなど、大会中、全日程に参加されました。

プログラムは数々の発表があり、日本からはオラルプレゼンテーションとポスターセッションが各1題ずつありました。この中で、アジアでも出生率の高い諸国はファミリープランニングに関心をもっておられ、会場からも多くの質問や意見がありました。この中から日本をはじめ高齢化がすすむ香港などとの二分極化が感じられました。

3日日夜に開催されたカルチュラルナイトで代表される国際交流も印象的で、カリクネスとして志を同じくし、互いに手を取り歩んでいこう、という心が通った思いを強くいたしました。次回は4年後マレーシアでの再会を約束して4日間の幕が閉じられました。

(清水みどり)

*** 2006年度 会費納入のお願い**

会員のみなさまは、次年度2006年度の会費納入を可能な限り、3月末日まで納入くださるようお願いいたします。正会員 4,000円 準会員(学生) 2,000円です。各支部の担当者の方は「名簿・住所」を本部事務局あてに送付し、会費は「郵便振替」で送金してください。どうぞよろしくお願いいたします。

・ 名簿 送付先 ☎ 177-0031 東京都練馬区三原台3-13-6 伯川雅美様方
JCNA 事務局 宛 (電話03-3922-2307)

・ 会費 郵便振込 00190-4-49392 日本カトリック看護協会

JCNAの使命をよりよく果たしていけますよう、新しい会員の加入のため、祈り、出会いを求めましょう。

*** 2006年度JCNA全国総会のお知らせ**

上記の総会は 2006年5月27日(土) 9:30から17:00まで 名古屋・南山学園研修センターにおいておこなわれます。支部長さま方には後日別途にお知らせいたしますが、開始時間・終了予定時間とも前回とは変更になっておりますので、よろしくお願いいたします。

*** 「世界病者の日」教皇メッセージより**

ベネディクト十六世教皇様は、今年の「世界病者の日」(2月11日)のメッセージを発表されました。その中から少しご紹介させていただきます。

「この機会に、教会は、苦しむ人々に心を砕き、精神障害にかかわる問題に向けて世論の関心を促したいと思います。現在、世界の五分の一の人が精神障害に苦しんでおり、真に実効性のある社会的な取り組みとしての医療活動を緊急に必要としています。

多くの国で、まだこの分野に関しての法律が存在せず、国によっては、精神衛生に対する明確な行政対策さえありません。また、世界各地で起こっている武力紛争の長期化や、相次ぐ大きな自然災害、テロの広まりが、恐るべき数の死者を出している上に、相当数の生存者たちの心に精神的外傷(トラウマ)を残し、その回復が時には難しいことにも注意しなければなりません。高度に経済が発展した国々においても、道徳的価値観の危機が与える悪い影響が、新たな形の精神障害の原因となっていることが、専門家によって指摘されています。道徳的価値観の危機は、人々の孤立感を深めています。また、家族制度をはじめとする、伝統的な形での社会的きずなを弱め、場合によってはそれを破壊してしまいます。そのため、病者、とくに精神障害者は、しばしば家族や共同体の重荷とされ、疎外されているのです。わたしは、ここで、人道的かつ福音に根ざした理念と原則に基づいて連帯の精神を高め、人々がこうしたわたしたちの兄弟姉妹の世話を忍耐強く行うように、さまざまなかたで、またさまざまな分野において働きかけているかたがたに対して、心から感謝したいと思います。」

(翻訳:カトリック中央協議会事務局)